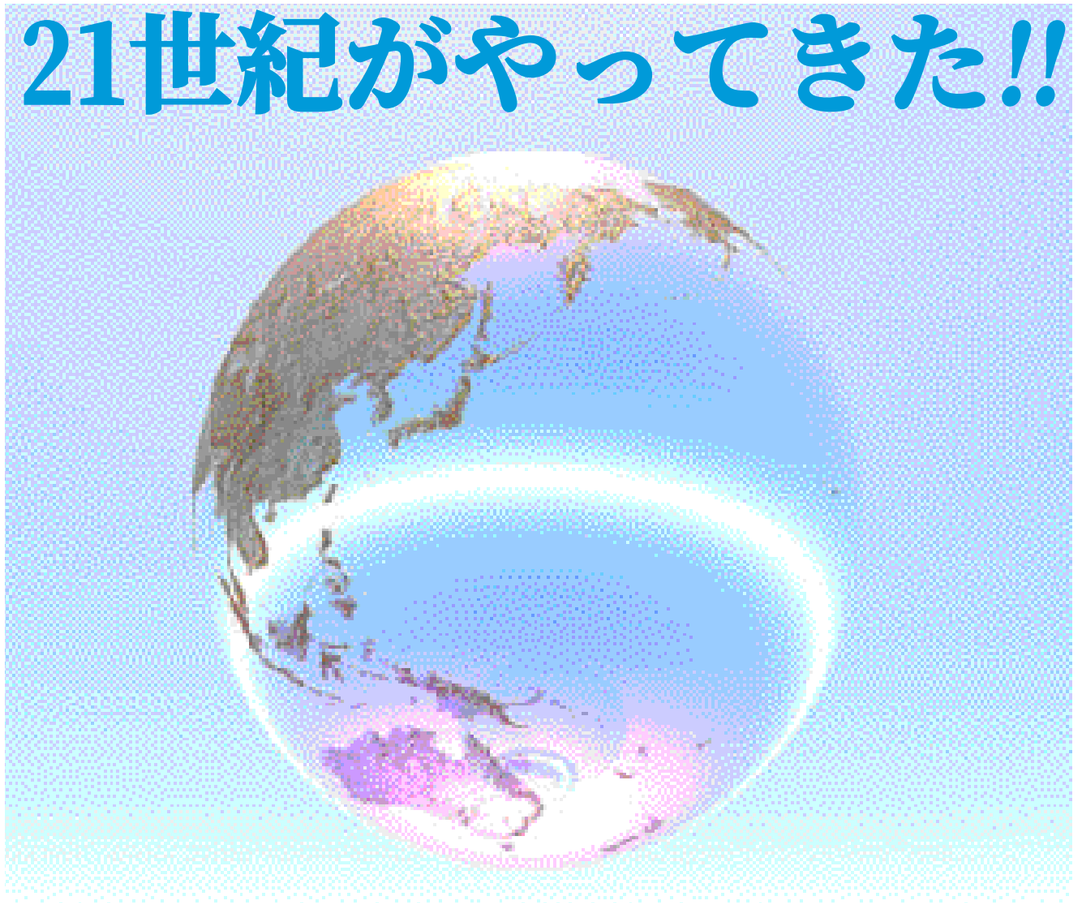
21世紀がやってきた!!



地球の歴史は数百億年
生命の歴史は数十億年
哺乳類の歴史は数億年
人類の歴史は数百万年
そして世紀が始まって、二千年が過ぎました。

私たちは21世紀を迎えました。
長い長い地球の歴史からすれば
20世紀から21世紀になったことなど
本当に小さな事件かもしれません。
けれどもこれからの時代は
人類の歴史の中で
ひときわ輝く時代となることでしょう。
もちろん美濃加茂市にとっても
これからを生きる
あなたにとっても…。
今回は21世紀をテーマに
いろいろな人にお話を聞きました。

21世紀における ITの展望

＊IT=インフォーメーションテクノロジー（情報技術）の略

▲インターネットに接続すれば、そこには無限の可能性を秘めた世界が広がる。

あけましておめでとうございます。新世紀の幕開けをみなさんとともに迎えることができましたことを、心からお慶び申し上げます。

世の中が想像を越えるスピードで変化している中で、１０００年単位、１０００年単位で歴史の節目を迎えることが、何とも得がたい喜びに感じるのは私だけではないと思います。

さて、２０００年の流行語のひとつに「ＩＴ革命」がありました。政府の「ＩＴ戦略会議」では、５年以内にＤＳＬ（デジタル加入者線）などの高速インターネット網に３、０００万世帯が接続、インターネットの普及率を60％以上にすることや、１、０００万世帯が光ケーブルによる超高速ネット網に常時接続する方針を出しました。

ＩＴの進展スピードを考えると、その先がどうなってくるのか、なかなか想像がつきません。そこで、もう少し先の２０５０年あたりまでを想像してみますと、こんな夢がかけました。

○紙幣、貨幣が消える。

すべて電子マネーにかわる財布はなくなり、ＩＣカードが１枚あれば何でも買えるようになる。

○一般の家庭からパソコンがなくなる。

デジタルテレビジョンと光ケーブルを使った超高速通信回線をつないでインターネットが使えるようになり、市役所や学校の行事が茶の間でわかるようになる。

○自動車の運転手がいらなくなる。

自動車のコンピュータに行き先をインプットしておけば、居眠りをしていても目的地に到着できる。（ほんとかな?）

○ペットのいる場所がすぐわかる。

犬や猫などのペットにマイクロ発信機がつけられて迷子になってもすぐわかる。

○携帯電話から家庭の冷暖房設備のスイッチを、つけたり切ったりでき、また、防犯カメラのモニターができてどこにいても様子がわかる。

○月に住んでいる人とインターネットがつながる。

チョット無理かな。でも、これらのほとんどは、「夢」というより実現できそうなことばかりです。

小木曽秀夫さん
（NTT西日本中濃営業支店 支店長）

私が描いた未来の夢

宮崎紗和さん

（太田小）

毎年夏休みにつくる市発明くふう展の作品。私は今年、絵画の部に出展。絵画の部は「未来の科学の世界や未来の夢」について描くこととなっていました。そこで、私が描いたのがこの絵です。題名は「スカイコンサート」。空の上で動物たちとコンサートを開催し、世界中に私の指揮する音楽が流れ、世界中の人がみんなしあわせな気持ちになれたらいいな…という思いを込めて描きました。

そうしたら、市発明くふう展では支部長賞、県発明くふう展では奨励賞に入賞してびっくり。とってもうれしかったです。

けれども、はじめからすらすらとこの絵が描けたわけではありません。新聞広告の裏などに、何度もラフスケッチをしました。一番の相談相手はお父さん。お父さんと一緒にスケッチしたりいろいろと考えたりして、やっとテーマと絵の基本的なかたちをまとめました。

下書きは、まず建物から始めました。そのほうが、全体の配置を考えやすかったんです。次に動物、最後に子どもたちの順に描きました。

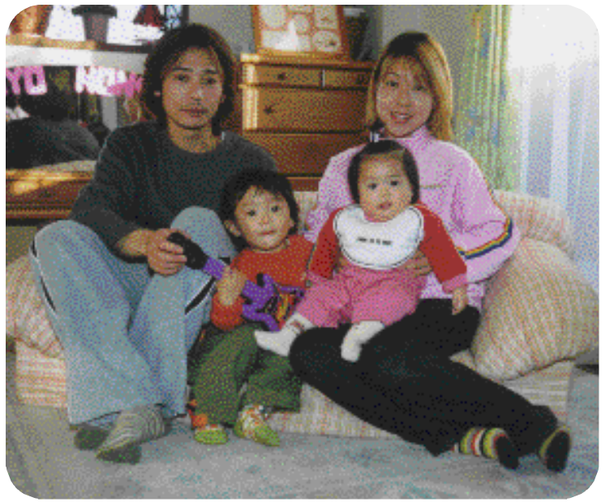
色を塗るときは、背景を私の一番好きな色・黄色にしました。そのほかの部分は「どんな色にしようか」とか「どんなふうに塗ろうか」とか、やはりお父さんといろいろ相談しながら色付けしました。特に、建物や階段は、光があたる面と少ししかあたらない面があることから、色の濃さを変えると立体感が出るということを、お父さんに教えてもらいました。一番むずかしかったところは、子どもたちを塗るところです。細かいし配色にも困ったし、大変でした。

空の上で世界がつながり、私の大好きなチューリップやひまわりが咲き乱れ、動物たちも子どもたちも、みんなが楽しく過ごしている。指揮をする私、楽器を演奏する動物たち、さえずる小鳥たち、響きわたる音楽…。それが、私の描いた未来の夢。そんな、平和で幸せな未来があるといいなと願っています。

私自身の夢は、看護婦さんになること。21世紀に一番実現させたい夢です。

宮崎さんの作品「スカイコンサート」

無事で健康それが一番



渡辺家のみなさん（島町）

（左から；剛（つよし）さん・凌也（りょうや）くん・莉麗（りか）ちゃん・のり子さん）

21世紀初のお正月を迎えた渡辺家。一家だんらんの中、お父さんとお母さんはこんな話をしていました。

のり子「わが家の21世紀が、にぎやかに始まったわね」

剛　「そうだな。'98年に結婚して'99年に凌也（なんと平成11年1月1日生まれ）、'00年に莉麗が誕生。忙しい世紀末だったよ」

のり子「'99年は1000年代最後の年。「2000年問題」が騒がれていたけれど、無事に凌也の誕生日が迎えられてうれしかった。'00年は20世紀最後の年であり、2000年代最初の年でもあったわ。莉麗が生まれて、偶然とはいえこの子たちには、不思議なめぐり合わせがあるものだと思った。

ほんと、大変な世紀末だった。これから、子どもの成長とともにもっと大変になるんでしょうね」

剛　「子どもの成長に従って、このアパートでは狭くなってくるだろうね」

のり子「そうね。今どきの子どもの遊び場は、私たちの子どものころと違って家の中だもの」

剛　「俺が子どものころ、美濃加茂には田んぼや畑がもっともっとあった。そこで自然とふれあいながら成長してきた。親と遊んだことだって、今でもよく覚えている」

のり子「そういう場所も機会もなくなりつつあるのが現実。だから私は、この子たちをできるだけ子育て支援センターなどに連れて行きたいと思うの。この子たちが同世代の子どもたちと遊ぶことができるし、母親同士も、子育ての情報交換ができて助かるのよ」

剛　「俺が仕事に行っている間、3人だけになっちゃうから、気軽に出かけられる場所があるのはいいこと。俺も、もっともっと子どもたちと一緒に過ごしたいな。自分ができるいろいろなことを、全部教えてあげたいよ。早く凌也と一緒にキャッチボールしたいなぁ」

のり子「まだまだ先のことよ。お楽しみに」

剛　「この子たちが大きくなるころ、世の中はどうなっているかな」

のり子「…私は不安だわ。今、子どもを狙った妙な事件ばかり起こるでしょ。少年犯罪も増えつつあるし…」

剛　「そうだね。事故や犯罪に巻き込まれたり、起こしたりせずに生きていってほしいよね。

のり子としては凌也と莉麗のどっちが心配？」

のり子「そうねぇ…。私は凌也。男の子のほうが、危険や誘惑に接する機会が多いから、悪いことに引き込まれたりしないか心配だわ」

剛　「俺は莉麗の方だよ。女の子のほうが、犯罪の標的にされやすいから…。心配はつきないね」

のり子「どんな子に育つのかしら」

剛　「俺がこの子たちに望むとすれば、いろいろなことを自分の力で乗り越えていけるような、たくましさを身につけてほしいな」

のり子「私は、ふたりともいつまでも“甘えんぼちゃん”でいてほしいんだけどなぁ。とにかく、健康で、無事に育ってほしい!!」

剛　「そう、それが一番」

のり子「そして21世紀のあなたには、一世一代の大仕事が待っているのよ」

剛　「えっ!?」

のり子「マ・イ・ホ・ー・ム。この子たちのためにも、がんばってね」

市民が変わる、市民が動く。まちづくり新時代

人口が5万人を突破し、道路や下水道などの社会基盤整備が進むこのまちでは、21世紀の都市としての機能が整いつつあります。

しかし、それだけでは「くらしやすさ」「住みよさ」を実現できません。

そこで、21世紀のまちづくりに必要なものを、*NPO法人「花時計」代表の岸さん、「21世紀アワの会」代表の中山さん、市健寿連合会会長の馬場さんに話し合っていただきました。

***NPO法人＝特定非営利活動法人**

支えあう地域づくり

岸　「高齢者介護を体験した仲間たちで、私たちがしてほしかったことを、私たちができる範囲でやってみようと始めた宅老所『花時計』。老いはだれにでも確実にやってきます。そのうえ、社会は少子高齢化が進行。そうすると、私たちのような存在や福祉サービス、そして地域コミュニティを巻き込んだ、お互いに支えあうシステムが必要ではないかと実感しています」

馬場「健寿会にも在宅介護者がありますが、問題は、高齢者が高齢者を介護する『老・老介護』。福祉サービスも、独居老人や介護者を対象としたものはありますが、高齢者夫婦を対象としたものはないようです。けれども、大切なことは寝たきりなどにならないこと。健寿会では『ねたきりゼロの10カ条』を掲げ、健康保持や規則正しい生活習慣などに、会員みんながつとめていますよ」

中山「高齢者の在宅介護者は約9割が女性と聞きます。お嫁さんが介護者の場合、すべてを介護に捧げなければならないのが現実。女性がその人らしい人生を送ることができる社会を実現するため、子どもや高齢者は社会の財産という視点から、やはり地域社会としての支援体制の必要性を感じますね」

役割分担によるまちづくり

岸　「『花時計』にかかってくる相談の電話は、以前はお嫁さんが泣きながらかけてくることが多かったんですが、最近は息子さんからの電話や訪問が増えてきました。閉鎖的だった介護環境が、福祉サービスの充実によってだんだん開放的になってきたこともありますが、男性も在宅介護に参加するようになってきたみたいです」

馬場「基本的に、男と女に格差はありませんからね。ただ、男としての役割、女としての役割があるだけです。そして21世紀は、世代が連帯するなかで、男女が共同参画する時代だと私は思います」

馬場繁男さん

中山「とはいえ、男尊女卑はことわざなどにもみられますし、高齢者や若者に比べると、戦後日本の経済成長期に育った世代にその傾向が強いようです。そのわりに、女性って大変な役割を果たしてきたんですけれどもね。とにかく、積み重ねられてきた歴史が重すぎて、男女共同参画という考え方が、すぐにみなさんに受け入れられるわけではないようです。市民の認識を深めるためにも、市がすすめている男女共同参画基本条例の制定に期待するところです」

岸　「ほんとにね。けれども、過去の歴史は変えられないものだから、これからどうするかが問題。21世紀は、役割を分担してお互いに助け合う時代。みんなで新しい発想を受け入れ、意識を変えないと。自分に何ができるのか、何を求められているのかを認識し、お互いの役割と責任を果たしてこそ、社会が成り立つのではないでしょうか。男と女に限らず、育児における父と母、行政と民間の関係も同じ。そして、役割と責任を果たす場として、地域コミュニティの確立も重要。人と人とのつながりが薄くなって疎外感のある時代だからこそ、なおさらです。

　それができてやっと『介護の社会性（地域社会による介護支援システム）』『育児の社会性（地域社会による育児支援システム）』が実現されます。人任せにしておいては何も解決しません。みんなで汗を流し、みんなで『住んでいてよかった』と言えるまちづくりを進めたいものです」

中山「そのとおりですよね。そして、取り組みを始めるときは、今をおいてほかにありません」

21世紀は4次総から

岸　「『花時計』のような活動をしていると、いろいろな人が訪問してくださいますが

岸　智津子さん

これがとてもおもしろい『ふくらみ』を見せ始めているんですよ。

　近所のアパートの母子が遊びに来てくれるようになったり、この間は西中学校のオリエンテーリングのチェックポイントになったり。たくさんの中学生が訪れてくれたから、世の中への『花時計』の必要性を感じてほしいな、と思っています。体験学習もよく受け入れていますよ。これらがさらに来所者の刺激になって、あるときは、ぼけのある来所者が自宅に帰って、その日のできごとを話してくれたそうです。

　高齢者福祉も、子育ても教育も、みんなつながっているんですね。これに気付いたとき、とてもうれしかった。一生懸命やっていると道が開けることも学んだけれど、ひとつの活動が、波紋のようにいろいろな広がりを持つこともわかりました。おかげで、来所者の健康余命を延ばすのにも役立っています」

中山「余命といえば、現在の高齢者は天然食材のものを食べてきたので、長生きするという説があるとか。『21世紀アワの会』で、食をとおして健康や環境のことなどを勉強して知ったのですが、それとは対照的に『カップラーメン世代』以降は人工調味料などを摂取しているため、長生きは期待できないとも言われています。そして、家族の食を引き受けている母親は、よほど食材や調味料の知識がないと、家族を汚染から守れないような世の中になってしまっているようなんです。そういうこともあって、無農薬野菜や天然塩などがとても注目されています。

　食に限らず、今、私たちの環境は危険な状況。4月1日には市の環境基本条例が施行されます。私たち自身が環境を守り、よりよいものにして次世代に引き継がなければなりません」

馬場「中山さんの話をはじめ、環境問題は、非常に複雑で難しいですよね。それ以外にも、ごみ問題、青少年問題、交通問題など、『環境』ということばは私たちの生活全般を指していますから、総合的に考えていかなければならないことだと思います。

　市の第4次総合計画には、『まちに元気』『人にやさしさ』『くらしに環境』という3つのキーワードがあります。これにもとづいた諸施策に期待するとともに、私たち健寿会も積極的に参加・協力していきたいですね。21世紀は、数の上からも、高齢者が社会の主役ですから」

岸　「『民』は心とやる気、『行政』は条件整備を担（にな）ってパートナーシップを発揮できれば、21世紀の美濃加茂市は、きっといいまちづくりができます」

中山千津子さん

私たちの21世紀

… 新しい時代を迎えて …

子どものころ、まだ遠い先のことのように思っていた21世紀。今、すべての市民のみなさんと共に、記念すべきときを迎えました。新しい時代の幕開けに、みなさんはどんな思いを抱いていますか。

市は、「まちに元気」「人にやさしさ」「くらしに環境」を合い言葉に、21世紀のまちづくりを第4次総合計画に基づいて始めます。

そしてこの人たちは、自分の21世紀をこんなふうに考えています。

文化

西尾　縁さん（牧野）

私の20世紀は“のほほん”としているうちに過ぎてしまいました。最近は、ようやく自分の時間が持てるようになったので、文化の森に学習ボランティアとして登録。児童・生徒が文化の森へ授業でやってくるときは、アシスタントとして活動しています。21世紀も、私のフィールドは文化の森。ボランティア活動はもちろん、たくさんの人との出会いがとても楽しみです。

スポーツ

小林久範さん（東中）

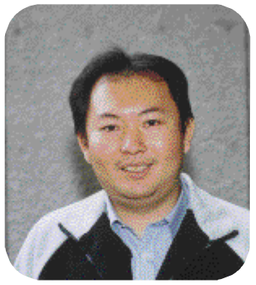
遊んでばかりいた僕が陸上競技と出会い、すっかり夢中になってしまいました。20世紀の目標は全国大会出場。これを果たすことができてよかったです。21世紀には、オリンピックや世界陸上競技大会などに出場できるような選手になれたらいいなぁ。でも、本当の夢は、学校の先生になることですけれどね。陸上競技には、できれば一生かかわっていきたいです。

平和

堀部幸子さん（加茂野町）　榊 きまさん（加茂野町）
田野武子さん（加茂野町）

榊　「いつの時代も、やっぱり健康第一」
田野「家族みんながそうあってほしいわね」
榊　「私たちは戦争のあった時代を生きてきたから、21世紀に本当に望むことは平和」
堀部「争いごとのない社会にしてほしいわね」
田野「ほんとね。心からそう願うわ」

自然



尾高アントニオさん
（太田本町）

ブラジルでは、ミレニアムには地球に大きな変化があるといわれていました。無事に21世紀を迎えられてよかった。でも、まさか日本でそのときを迎えようとは、夢にも思っていませんでした。家族と一緒に、記念すべき時を過ごしたいと思います。

新世紀には、まだ結婚したばかりなのでBABYがほしいな。相変わらず仕事は忙しいでしょうけれどね。

農業

石井功一さん（山之上町）

農業を営む人にとって後継者問題は大きな悩みのひとつでしょう。ナシを生産する農家も同様。農園を手放す人も、中にはあるようです。

幸いにしてわが家は後継者があるので、21世紀も「美濃加茂市の特産物」を生産できることを誇りに思っています。観光農園として果樹園の開放も行いますが、人気は上々。家族と一緒に、「美濃加茂のナシ」を守っていきたいと思っています。

新成人

納土直樹さん（蜂屋町）

「21世紀最初の新成人」「2001年に20歳になる」…。正直言って、今はその実感があまりないというのが事実です。きっと何年も経ってから、その価値がわかってくるのだろうと思っています。

あれよあれよという間に時間が流れて気がつけば20歳。21世紀には社会人。そのとき、どんな世の中になっているのか。不安でもあり、楽しみでもあります。

21世紀のまちづくりは市民が主人公

～第4次総合計画「基本計画」から～

●第4次総合計画の推進にあたって最も考慮しなければならない点は「透明性」の確保です。

●それは市民参加のもと、多数の審議会や部会を開催し、種々議論を経て、鋭意、策定された経緯からいっても当然のことであります。

●そもそも、行政の透明性を高めることは、市民と行政とのパートナーシップの大前提となるもので、両者の信頼関係はここから始まります。

●しかし、透明性を高めるだけでは問題解決になりません。そこには、「わかりやすく」という視点が非常に大切になってきます。

●つまり、第4次総合計画で推進される事業は、すべて市民に公開し、しかも、これをわかりやすく市民に説明していく「説明責任」非常に大切なこととなります。

●他方、公開された事業を評価するのは「市民」です。行政の仕事の評価は、独善的であってはいけません。市民の目線から見た評価が必要です。このため、客観的な評価システムを導入していく必要もあります。

●もちろん、市民にもまちづくりの一員としての義務があります。市民一人ひとりが相互に協力し合い、美濃加茂市全体の見地に立って、積極的に21世紀のまちづくりに参画していく自覚が必要です。

●今、地方分権により市の独自性が高まる中で、地域団体やボランティア、NPOなどの「自主的な市民団体」はこれからの街づくりの主体となるべきでしょう。

●美濃加茂市は、市民が主人公のまちづくりをめざします。